



出水小学校 学校だより

そったく き  
啐啄の機 R7 No. 12

令和7年10月30日(木)

熊本市立出水小学校

校長：横山 幸生

## 6年生 修学旅行 「平和」と「絆」

10月16日(木)、17日(金)の2日間、すばらしい秋空の下、6年生は修学旅行に行って来ました。

長崎市に到着すると、まずは、長崎原爆被災者協議会の平田周さんの平和講話を聴きました。子どもたちはとても真剣なまなざしで熱心に話を聴いていました。次に原爆資料館を見学しました。しっかりとメモをとりながら、一つ一つの展示物をじっくりと見学していました。その後、原爆資料館内にある「追悼空間」で平和集会を行いました。原爆死没者の名簿が収められている名簿棚に向かって堂々とした態度と大きな声で平和の誓いを行い、みんなで祈りを込めて作った折り鶴を捧げました。最後に平和公園、如己堂、永井隆博士記念館、山里小学校、浦上天主堂などを班ごとに分かれてフィールドワークを行いました。ここでもガイドさんの話をしっかりとメモを取りながら、一生懸命聴いていました。実際に話を聴き、目で見て、自分の足で歩くことで、戦争の恐ろしさ、平和の尊さについて実感を伴って学ぶことができました。



2日目はハウステンボスに行きました。班の友達と協力して、自分たちで話し合っ立てた計画に沿って、アトラクションを楽しんだり、ランチを食べたり、お土産を選んだりと楽しみました。

6年生の子ども達は、学ぶところと楽しむところのメリハリをきちんとつけながら、すばらしい態度で2日間を過ごしました。様々な場面で友達同士で助け合う姿もたくさんみられ、6年生のチームワークのすばらしさに感心しました。友達との「絆」も深まったことと思います。さすが出水小学校の最高学年です。その姿をととても頼もしく、誇らしく思いました。この2日間の修学旅行で学んだことを、これからの生活の中で、活かしてくれることを期待しています。

## 「地域」に支えられて育つ子ども

10月19日(日)に「いずみフェスタ」が出水小学校の体育館で開催されました。出水小学校からは5、6年生の有志11人が、器楽合奏や空手の型と板割のパフォーマンスを披露してくれ、会場は大いに盛り上がりでした。

また、10月26日(日)には戸井の外公園で「水前寺にぎわい祭り」が行われました。4年生の有志が出演し、運動会で行った「ソーラン節」を披露しました。気合の入った演舞と掛け声に会場から多くの拍手をいただきました。

11月以降も、青少協の「防災キャンプ」や自治協議会・防災連絡会の「ふれあいまなぼうさい」、民生児童委協の「お正月カルタ大会(仮称)」などが予定されています。

このような地域の行事等を通して、一人一人の子ども達に多くの大人が関わることで、子ども達は大きく成長することができます。次のような言葉があります。「子どもを『花』に例えるならば、地域住民は『土』、学校は『木』、教職員は『風』。土には土の役割があり、木には木の役割があり、風には風の役割がある。」学校教育は地域という土台に支えられた上に存在しています。「肥沃な土」に支えられることで子ども達は美しく咲き誇ることができるのだと思います。まずは、保護者の皆様が積極的に地域とかかわっていただき、子ども達にとっての「肥沃な土」となっていただければと思います。私たち教職員はいずれ異動をしなければならぬ風のような存在ですが、「学び」という「さわやかな風」を運ぶことで、地域や保護者の皆様と共に子どもの成長を全力で支えたい思っております。